

友の会事業活動から

令和4年度
世田谷美術館友の会総会

5月13日(金)

参加者42名 委任状226名 計268名 (会員520名)

令和2、3年度の総会は書面表決でした。本年度は、通常の総会が開催されました。予定通り13時30分開始。司会進行は河合岳夫世話人。庄司マサエ代表世話人の挨拶、酒井忠康世田谷美術館館長のご挨拶、世田谷美術館幹部の皆様の自己紹介と順調に進み、議事に入りました。

山崎勉世話人を議長に選出。令和3年度の事業報告、決算報告、監査報告があり、全会一致で承認されました。続いて令和4年度の事業計画案、予算案の説明があり、全会一致で承認されました。その後、令和4年度の世話人、監事、事務局の紹介があり、議事は無事終了しました。

その他の意見・要望の時間では、実技講座の回数、実施曜日等で前向きな要望が出され、多様な検討を進めることにしました。

参加者の皆様のお蔭を持ちまして、意欲的で温かな総会になり、予定通りの時間で終了となりました。

(友の会総務企画部)



油彩講座

講師：早矢仕素子

4月1日(金)～22日(金) 全4回 参加者22名

小宮山洋一

4月1日、8日、15日、22日の4日間行われた早矢仕素子先生指導の友の会油彩講座の話をしますね。

定年になったのを機に浮世離れしたくて世田谷美術館美術大学に入って「木彫」「映画」「銅版画」「オイリュトミー」等々を学び、すごく楽しい時間を過ごさせてもらったのですが、ふと油彩画が足りないじゃんと感じ近所の絵画教室に通い始めた。人生初の油彩画デビューです。

『絵は描きたいものを描きたいように描く』をモットウに気がつけば友の会の「砧の森」コーナーに17作品を掲載していただくほどにはまり込み、無謀にも有名な公募展にも出展するほどにのめり込んでしまいました。

そんなところに油彩講座の案内が配信されてきたので、即参加の申込みをし今回の参加となったのです。

内容は綺麗なモデルさんのポーズ画ですが、早矢仕先生が参加者全員の所を巡回指導してくださり、「線がうるさい」「影の付け方」とかの確かな助言をワリと素直に聞いている自分。不思議!

そのウジウジ逡巡している貴方(貴女)! やったら面白いから次は参加しませんか?!



木彫刻講座「抽象彫刻を聴く」

講師：三宅一樹

(彫刻家、世田谷美術館美術大学講師)

4月10日(日) 参加者42名

「抽象彫刻を聴く」に参加して

櫻井久喜

入会して初めて参加した講座で、感想文の依頼を受け、びっくりしました。初めてならではの素直な感想が書ければと思い、お引受けしました。

抽象彫刻は、好きか嫌いかで見ればよいと思っていましたが、それ以外に不変的な基準みたいなものがあれば知りたいと思い参加しました。

音楽に音階という土台がある様に、彫刻にも音階にあたる要素が、「具象」「抽象」の区別なく、名作には備わっていると、面、量、生命感等、15の言葉が要素としてあげられています。これぞ、不変の基準!

建築にも共通の要素があるとして、薬師寺の塔の映像と説明がありました。家具の設計をしごととしていた私には、名作と言われる椅子にも共通の要素があると思いました。

ギリシャ彫刻からロダン、ムーア、建昌覚造等々に至るまで、映像と解りやすい説明で、抽象彫刻に対する理解を深めることが出来ました。三宅先生有難うございました。



友の会主催 解説・鑑賞会

生誕160年記念

「グランマ・モーゼス展——素敵な100年人生」

解説：遠藤望学芸員

1月16日(日) 参加者22名

森山誠二

かつて静岡県立美術館(略称は県美)と友の会に関係して以来、久々に公立美術館の友の会の会員になりました。県美の学芸員の意識は高く、企画展でも動員数は気にはなるものの、学術的な出来栄にも価値をおいていました。収集、研究、展示のバランスが大切であり、動員数にのみ偏るのはいかかなものかという議論をしていました。毎年、科学研究費補助金にも採択されており、日本経済新聞社による公立美術館ランキングでもかなり上位にありました。

今回会員になりました世田谷美術館も負けずに学芸員の方々のレベルの高さを感じました。全国各地の美術館を巡回する「グランマ・モーゼス展」ではありますが、実質的に世田美の学芸員の方が中心となっておられるようで、その一端が今回参加させて頂きました解説・鑑賞会に現れていたと感じました。遠藤学芸員のお話を聞いてからの鑑賞は、大変興味深いものとなりました。今後とも素晴らしい企画を楽しみにしています。



友の会主催 解説・鑑賞会

2021年度ミュージアム コレクションⅢ

「ART/MUSIC

わたしたちの創作は音楽とともにある」展

解説：矢野進学芸部美術担当マネージャー

4月2日(土) 参加者27名

永井和子

画家であり作曲もするという芸術家のエピソードも交えて、その音楽も聞くという貴重な講座だった。みっちり2時間の講義で全部は書けないが特に印象に残ったものを。

アンリ・ルソーが亡き妻のために作曲した「クレマン」は絵画《田舎の結婚式》が浮かぶワルツで、会場に展示されているのは口髭の肖像画で、その対照がおかしかった。アラキネマという手法を生んだ荒木経惟の《花曲》は花卉の開く画像が浮かんできたが、実際講座の後で見た大きな絵は私の思い浮かべたような花達だった。ガーナ出身のサカ・アクエの音楽はアフリカ感に満ちている。正に彼の彫刻、ドラムを叩く男性の手の動きのイメージである。

現代美術と現代音楽の取り合わせは互いに鑑賞を増幅しあい、時に



は意外性もあるが興味深い紹介だ。講座の中で紹介された曲の中には、聴いていると手が動いて何か描きたくくなるようなものもあって音楽と美術のつながりに改めて気づかされた。

私のお薦めアート本

思い出の企画展図録

中島規男

神田神保町にある古書店の一隅に美術館図録や学校同窓会名簿が積み重ねられていました。古書でもそれぞれ高い文献的価値があるということです。世田谷美術館の図録は、二階アートライブラリーに入って左側の書架に並べられています。私の最も関心の高い企画展は、メソポタミア展、三星堆展、パリジェンヌ展、東宝スタジオ展などです。

中国文明の源流は、これまで黄河文明であるとされ、仰韶文化、竜山文化がそれに当たります。ところが1986年に長江上流域の三星堆でこれまで見たこともない奇怪な仮面や人頭像を含む青銅器文化が出土、発見され注目を集めました。1998年には世田谷美術館で公開されて大きな話題となりました。

現在、ピーターラビット展が開催され盛況のようです。近年、スコットランド、イングランドに旅をして、湖水地帯の詩人ワーズワースの旧居や絵本作家のビアトリクス・ポターの花の美しい農場を訪れました。その時求

めた記念品のピーターラビットのぬいぐるみが、拙宅の飾り棚の上から私共を見つけています。



友の会主催 解説・鑑賞会

出版120周年「ピーターラビット™展」

解説：遠藤望学芸員

5月13日(金) 参加者39名

森田昭弘

ピーターラビットの物語は、日本では愛らしい絵物語として広く受け入れられている。遠藤学芸員から、主としてこの物語の英国湖水地方の上流階級的生活文化史的観点、読み手の年代による接点はどこにあるか、作者が作品とビジネスの融合を追求した結果、より広く読者の心を捉える事が出来た等のポイントとなるお話を伺った。

イラストレーターとして出発したビアトリクス・ポターが、鋭い観察眼と繊細なタッチ、落ち着いた色使いの彩色画の世界にピーターとその家族を表現する一方、ストーリーは『不思議の国のアリス』や『シンデレラ』から、プロットの一部を取り込む事で自らの物語をふくらませて、読み手に次の展開への期待を誘う巧みさがかがわれた。この物語がより広く子供達



に受け入れられる様に単行本としてのサイズと価格まで提案するビジネスセンスは、童話の世界に止まらないで、この物語が子供の心から大人の心までの広い読者層に支持されている現在の状況を導いたのだろう。

アートライブラリー通信

第6回 手製本の世界 ～柝折久美子氏の製本指南

紙を重ね合わせ、糸や糊で綴じる。1冊1冊、手仕事によって仕立てられた本を手製本といいます。

アートライブラリーの技法書棚にある『手製本を楽しむ』(柝折久美子著、大月書店、1984年)は、手製本について書かれた柝折氏の代表的な技法解説書です。より初心者向けの『えほんをつくる』(大月書店、1983年)と合わせて、柝折二部作と呼ばれることもあります。

著者の柝折久美子氏(1928-2021)は、日本における製本工芸(ルリユール)の第一人者。当館では、開館年にワークショップ「本をつくる」(1986年9月開催)の講師として参加いただいたご縁があります。

本書は、約40年前に出版されており、図版等はやや古い印象があるかも知れませんが、今なお通用する本格的な内容。材料の下準備、糸で綴じる方法、表紙の装飾など様々な技術と工程がまとめられています。手軽には言えないかもしれませんが、手順などを分かりやすく伝えるための工夫が随所に見られる、丁寧な説明が魅力です。本の構造や材料の扱い方を知れば、自分の手で本を作ることは難しくはないこと。気負わず、まずは手を動かし、自分だけの1冊を作る。そんな本づくりの楽しさを教えてください。

エッセイストとしても知られている柝折氏。ベルギーへの製本留学体験を綴ったエッセイ『モロッコ革の本』(筑摩書房、1975年)もおすすめです。

(世田谷美術館学芸部 司書/須藤美麗)



(写真手前)『手製本を楽しむ』62-67頁に掲載、柝折氏考案の糸綴じ技法「パビヨンかがり」で筆者が合冊した当館刊行物

木暮絵理学芸員に聞く

昨年10月に世田谷美術館に入れ、周りの雰囲気明るくして下さる木暮絵理さんにお話を伺いました。



Q1. 世田谷美術館とのかかわりは。

東京で生まれ育ち、大学も都内の東京学芸大学です。東京学芸大学と世田谷美術館の特別プログラムにインターン実習があり、3年生、4年生と2年続けて参加し学芸員の資格を取得しました。実は大学生になるまで子どもと触れ合うのは苦手でしたが、実習の出張授業で子どもたちと触れ合う内に、こちらが美術の面白さを全力で伝えると素直に反応を返してくれ楽しくなりました。最終的には大学院の2年間も含め、4年間実習生として活動しました。

Q2. 大学では宗教学を学ばれたとのことですが。

高校まで学んだキリスト教的世界観が、西洋絵画などを理解する上で欠かせないものと感じた時、今度は自分が住んでいる日本の宗教を一步引いた立場から見てみたいと思い宗教学の研究室に所属しました。人物表象という研究をし、ある歴史上の人物が物語や絵画、屏風絵などにどのように描かれてきたかを研究していました。

Q3. 教育普及担当では、どのようなことをされていますか。

一つは美術鑑賞教室です。そこでは初めて美術館を訪れる子どもたちにも、また美術館を訪れたいと思ってもらえるような体験を提供したいと思っています。こちらから説明するのだけではなく、子どもから自然に出た疑問に答えたり、考えて欲しかったら逆に問いかけをしたりします。子どもが何を感じて話そうとしているのか出来るだけ丁寧に聞き、子どもの中で咀嚼できるようにしてあげたいと思っています。

もう一つはプロムナード・コンサートの担当です。毎年2か月に1回開催していましたが、コロナの影響で昨年度から年に2回の開催を予定しています。コンサートは鑑賞教室とは違う面白さと大変さがあります。昨年度から客席を大幅に制限した影響で、今までならお越しいただけた方も実際の音楽を聴くことが難しくなっています。そこで毎回ご出演者、企画アドバイザーの丹羽正明先生とご相談し、当日の演奏の一部、対談、インタビュー等を、聴いて楽しむ「セタビPODCASTING」としてコンサートの後に公開するようになりました。

Q4. 将来なりたいお仕事は。

企画展やコレクション展、世田谷美術館ならではの展覧会などには是非関わらせていただきたいと思っています。この作家がよいというこだわりはないのですが、出来るだけ沢山の方にいろんな楽しみ方をいただけるような展覧会に携わりたいと思っています。

Q5. 休日はどのように過ごしていますか。

読書が好きで、小中学生の時は年間700冊読んでいました。今から考えるとよく時間があつたなと思います。今も分野を問わず読んでいます。又、父が美術好きなので、幼い頃から銀座の画廊巡りをしていました。今の日本のアートに触れることができ、運がよいと作家の方とお話もできたりするのでその経験、体験は貴重なものになっています。

あとはファッションにも興味があり古着屋巡りも楽しんでいます。

Q6. 友の会に期待することは。

友の会の皆さんは世田谷美術館のサポーターでありファンの方だと思っています。友の会と学芸員がお互いに寄り添うことで、美術館がよりよくなります。より多くの方々にファンになっていただければと、とてもうれしく思います。

(インタビュー/友の会広報部)

みんなのギャラリー

ペーパービーズネックレス《森の真珠》

鈴木豊司

和紙で作ったネックレス。和紙は軽くて、柔らかくそして人の気持ちを穏やかにします。栝や三桠の植物が出す「1/fのゆらぎ」かもしれません。

最初は展示会等の告知チラシで作っていましたが、「和紙で作ったら」との友人の一言から和紙にチャレンジするようになりました。和紙で始めて三年がたちます。白い和紙での玉は真珠をイメージさせました。そこでそれに対抗し《森の真珠》となづけました。直径が1.5センチの和紙玉を作るのに底辺1.5センチ、高さ約80センチの二等辺三角形を作り丸めてゆきます。結構根気のいる作業です。まさに職人となった気分で作ります。最近はそれに植物染料を塗り、オリジナリティを出すようにチャレンジしています。和紙は越前和紙、染料は京都の老舗「田中直」を使用しています。



後期高齢者の世田谷美術館美術大学卒、和紙ネックレス作家として知ってもらえることが目標です。指がまともに動く間に。

ご寄付のご報告及びお礼

会の存続と美術館支援のための寄付金が2022年5月31日現在、2021年1月からの累計で1,109,848円となりました。また会からの小川千鶴作品の寄贈に対し世田谷区長及び世田谷美術館館長より感謝状をいただきましたので、ご報告いたします。ここに改めてご寄付及び会員更新をしていただいた皆さまに心より感謝を申し上げます。



区長からの
感謝状



館長からの
感謝状

小野知華子 上村隆 匿名1名(前回以降の方々、順不同、敬称略)

(会費と寄付金の郵便口座 口座記号:001303 口座番号:119860 名称:世田谷美術館友の会)

これからの事業について

◎銅版画講座 9月2日～10月14日 毎週金曜全6回(9月23日を除く)

◎水彩画講座 10月14日～28日 毎週金曜全3回

◎会員作品展 11月16日(水)～20日(日)

◎解説・鑑賞会 企画展、ミュージアム コレクション展ごとに開催予定

*各事業につきましては実施の詳細が決まり次第、会員の皆様にチラシや友の会ホームページ等でお知らせいたします。

世田谷美術館友の会への入会のご案内

世田谷美術館エントランスにはラテン語で「芸術と自然は密かに協力して人間を健全にする」と彫り込まれています。館のサポーター・ファンクラブである友の会に入会し、生活に彩りを加えてみませんか。特典や入会手続きは下記へ。



お問い合わせは友の会事務局へ
入会案内(リーフレット)や下記ホームページもご覧ください。
tel.03-3416-0607
<https://setabi-tomonokai.jp/>

美術館人事異動

4月1日付け異動がありました。よろしくお祈りします。



橋本善八副館長
兼総務部長



村上由美学芸部長
兼普及担当マネージャー



谷亀緑郎総務部長補佐
兼総務担当マネージャー